

ぎふグローバル ニュース「Co-Work」52号 H28/12/3

Meijo Global Festa 2016

11月19日(土) S G H3年目の名城高校主催「Meijo Global Festa 2016」に2年生17名が参加しました。テーマは「中部地域とグローバル」

9:30～10:00 受付

10:00～10:30 開会式

10:30～13:00 フォーラム分科会(議論)部門

13:00～14:00 昼食

14:00～15:30 プレゼン(口頭発表)部門

15:30～16:30 ポスターセッション部門

16:30～17:00 全体講評・閉会式・記念撮影

参加した生徒は事前にフォーラム、プレゼン、ポスターセッションのどれに参加するかを決め、時間が足りないなかでプレゼンやポスターを作ったり、ディスカッションのための意見をまとめたりと事前準備をしていきました。

フォーラム分科会(議論)

4つの分科会に分かれ、各高校の生徒が数名ずつ入ったグループで議論しました。各分科会のテーマは以下の通り。

・A: グローバル化時代の働き方～対立・戦争を越えて協力・共生～ 名城大学経済学部 渋井康弘氏

・B: 国民国家とはなにか 名城大学経営学部 村松恵子氏

・C: 異文化の見方～文化相対主義を考える 名城大学外国語学部 津村文彦氏

・D: 「グローバル化」とは?～自分が考えるグローバル化～ 名城大学都市情報学部 亀井栄治氏

事前に各分科会のテーマとそれに関する資料が配布され、参加する生徒は意見をまとめていく必要がありました。どのテーマも難解で生徒は議論を進めるのに苦労しているようでしたが、初対面の生徒同士が徐々に打ち解けあい、協力して話題に取り組む姿がありました。本校の生徒も、活発に議論に加わ

っている様子が頼もしかったです。

Aでは、第一次世界大戦、第二次世界大戦が、それぞれグローバル化の影響ではないか、という視点から、グローバル化が戦争を引き起こす要因になっていた点に注目させ、グローバル化の功罪について、議論をさせようとする渋井先生の目標がありました。また、イギリスのUE離脱問題が、グローバル化と



は逆向きであることに注目させ、今後、その動きが、どう世界に影響するかを考えさせようとしていました。



Bでは、村松先生が、国家という意識が始まったのは、偶然ほぼ同時期に起こったフランス革命とアメリカの独立戦争だと解説されました。それまでは小さな領主に帰属する意識しかなか持たなかった民衆が、国王から独立することで民主の意識をもたせ、それまでの国王の領地を市民が手に入れることで、国家が生まれたという話に、歴史のうねりを感じたようでした。また先生は、この国家という意識は、

歴史が新しく、1つの形態でしかない、今後変わるかもしれないものだ、という話は衝撃的でした。国家の枠組み自体も、こだわるべき考えではないことが、グローバルを考える上で一つ基礎になるかもしれないと思えたからです。

Cでは、津村先生が、文化に優劣はない、という視点を生徒たちに持たせようとしておられました。インドのある地域では、夫が死んで際に妻も共に死ぬべきというサティという風習があるそうです。これをどう見るか。また、入れ墨をした外国人の受け入れを拒否した日本の温泉宿の話。捕鯨の賛否、等、非常に **debatable** な話題で、グローバル化の中で起こる文化衝突について考えを深める授業で、とても活発な議論が展開されていました。



D 各学校で生徒たちが取り組んできたグローバル事業の内容を照らし合わせて、「経済、産業、文化、芸術」の4つのグローバル化について意見を出し合う授業でした。中部の財産をどう海外に売り出すか、その効果や課題を議論しました。

プレゼン（口頭発表）



「グローバルと防災」というテーマで3名の生徒がプレゼンしました。レイテ島での活動や地域の方との交流について、

ジレンマゲームなど、実際のDIGの地図を見せたり、活動の動画を見せたりしながら説明しました。

プレゼンを聞いた他校の生徒からのアンケート（下記グラフ）では「発表が分かりやすい」「発表の方法」ともに高評価でした。

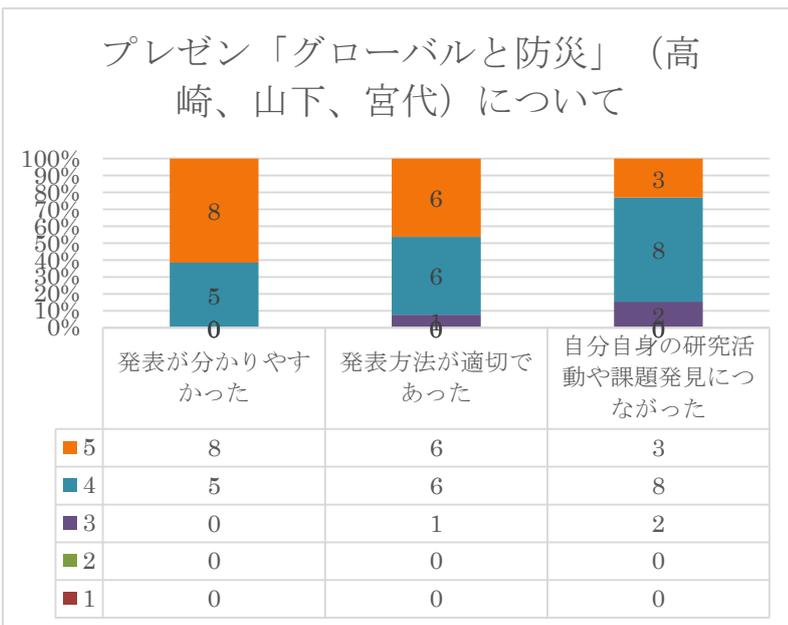
プレゼンに対する他校生徒の感想



- ・DIGもHUGも初めて聞いたけれどすごく良いシュミレーションだったと思う。日本でも地域防災がもっと広まると良いと思う。グローバル+地域が上手く盛り込まれていた
- ・海外でこのようなゲームをやるのは良いと思う。自分も海外へ行ったら防災のために交流したい
- ・具体的な防災を一例でもいいので教えてほしかった
- ・画像や動画もあってイメージしやすかった。あまり意識していなかったけれど地域のことについて自分は全然知らないのだと分かりました。
- ・DIG、HUG、ジレンマゲームを通して防災や地域とのつながりについて知ることが出来た

りについて知ることが出来た

- ・それぞれがやってきたことを分かりやすく伝えられたと思う
- ・日本とフィリピンでの防災の違いがあり、双方とも良い方法だったのでこれを機に自然災害への防災について改めて考えようと思いました。
- ・フィリピンでは日本よりも災害対策が普段から行われているので高い防災対策が可能だと思うので、日本でも取り入れるべきだと思った



- ・フィリピンの災害後に行ってDIGやHUGを現地の人たちとやっていたのがすごいと思った。自分のためではなく現地の人のためというのがすごい
- ・挙げた事柄についての動画をだしたり、実際に体験させることで理解しやすくするような工夫があった
- ・補足説明があってわかりやすかった。あらゆる想定をすることが大事だと分かりました。
- ・人々の防災への意識が変わるだろうと思う。防災には地域との関わりが大事だと分かりました。

↑他校性からのアンケート(高い評価を得ました。)

ポスターセッション



「戦争」「グローバルと防災」

会場 2 階のオープンスペースでは、前半後半入れ替えで計 40 ほどのポスターセッションがありました。「戦争」（馬場、武藤、大井）は、戦後直後のフィリピンと日本の関係についてのプレゼンで、カルロス・ロムロ大統領の「憎しみからは何も生まれない」というメッセージがフィリピン国民の怒りを鎮め、日本からの経済支援の減額に繋がり支援がスタートした流れを発表しました。フィリピンの高校生に戦争について直接聞いた話も交え発表が出来ました。

「グローバルと防災」（井口、川島、佐伯）は、フィリピンで DIG を実際に行った話を踏まえ、地域防災の意識の違いを発表しました。DIG で、避難する人をどう周囲に住む人たちに呼びかけあって誘導するか、というのが DIG ですが、そこにいる人たちが見れば手を貸してくれる、がれきの道を迂回しなくても、がれきをそこにいる人たちがよけてくれる、とフィリピンの高校生らに言われ、ギャップを感じた話をしました。

システムを構築しようとする日本人、でも地域の人的ネットワークがしっかり根付いているフィリピンは、その地域力で避難も早く進む、という事実、「教えに行ったつもりが教えられた」のでした。

ポスターセッションについて他校生の感想

x・カラフルで見やすく良かった。フィリピンから学ぶことがたくさんあって驚いた。お互いから学び合って少しでも良い災害対策が出来たらいいと思う

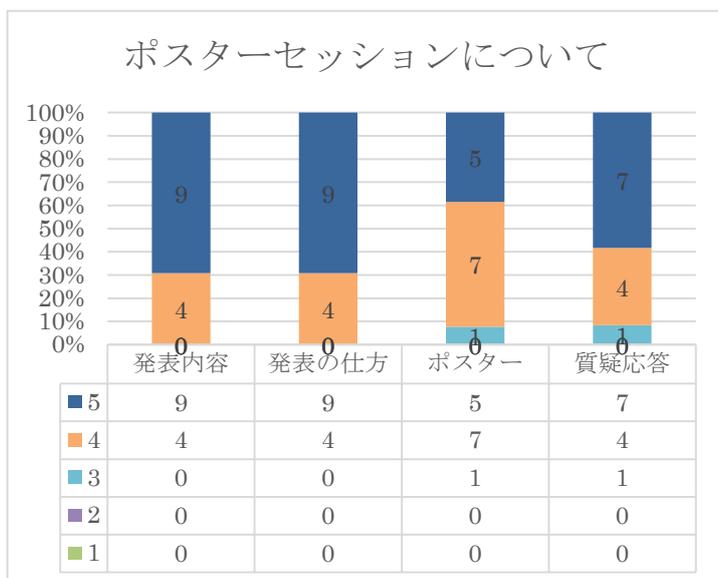
・DIG は知らなかったのでおもしろかった。フィリピンでは避難の意識がないと知ってびっくりした

・災害が多い日本では DIG を実施することでよりよい防災対策を立てられるのではないかと思った。

DIG を行う事で多くの意見が得られるのは良いと思う

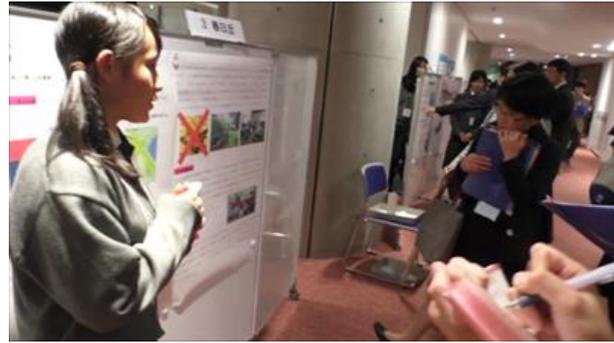
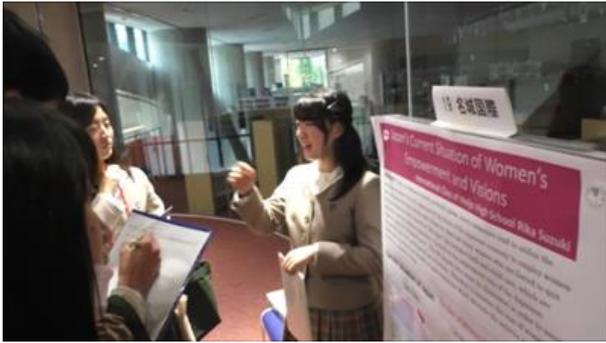
・フィリピンと日本では色々違う点があるのは知っていたが避難の仕方が違うのは驚いた

・とても分かりやすくおもしろくてよかったです。DIG も初めて知りました。システムに頼りすぎて地域での助け合いが卸化になっているというのがすごく納得しました。



- ・日本人ばかり親切だとかいわれているけど案外日本人は冷たいと思いました。動画とかが用意してあってとても分かりやすかった
- ・フィリピンの人が、お互いに助け合うことを当たり前だと考えていることを私たちも学ぶところが多いと思いました。直接経験した話もあり分かりやすかった
- ・直接フィリピンの人と話ができていて現地の人々の本当の考えがきちんと関連されていてより説得力がありよかったです

他校生の取り組み

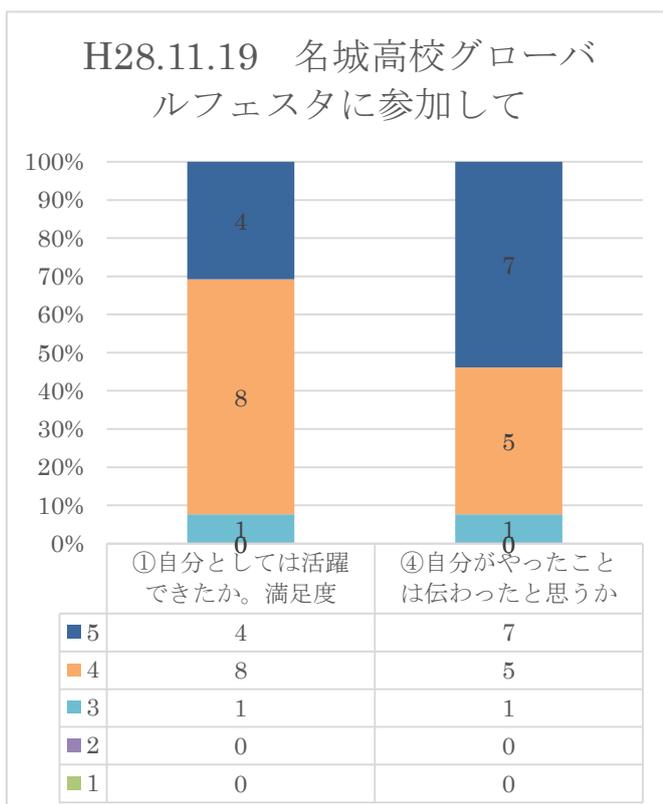


各校、各生徒、良くまとまった発表をしていらっしゃいました。すべてを事細かく見ることはできませんでしたが、本校の生徒のプレゼンも負けてはいませんでした。

参加者が赤い○のシールを2枚もらって、良かったと思うプレゼンに投票するのですが、「グローバルと防災」が一番多くシールをもらっていました。

名城フェスタに参加後の生徒へのアンケート

準備時間が満足に無かったが、参加したことへの生徒たちの満足度は高く、活動内容や自分の意見を伝えることが出来たと考える生徒も多い。



②良かった点

- ・国際的なことを含めてアクティブに活動している人たちと交流できたから
- ・事前学習していったことがしっかりと役に立ったので頑張っていてよかった。他の学校の生徒にも自分の意見を積極的に言えた。
- ・色々な学校の人の意見が聞けて、自分の意見も事前に考えたことを伝えられたのでよかった。
- ・色々な視点からの意見や質問があっっておもしろかった

- ・自分たちの伝えたいことを伝えられた
- ・ディスカッションで意見を言えた
- ・予想以上に会場の人のがのってくれた

③今後の課題

- ・しっかり調べる
- ・英語のリスニング
- ・もう少しはっきりとした声でしゃべることができるとよかった
- ・準備時間の確保
- ・もう少し練ってプレゼンできる部分もあった
- ・人見知りでなかなかアイスブレイクできなかった
- ・分科会とポスターセッションに参加したがあまり役に立てなかった
- ・フォーラムで発言が少なかった
- ・もっと時間をかけてしっかり対応できるようにしておきたかった

⑤自分がやったことは伝わったと思うその理由

- ・質問にしっかりと答えることができた
- ・英語で話す先生の意見を聞いて、それに対してちゃんと英語で返答できたから
- ・ディスカッションしていく中で自分の意見も入ったまとめになったから
- ・興味を持ってくれた人が増えたから。知らなかった人が知るきっかけになったと思うから。

⑥他校生の優れている点は

- ・民主主義や現代社会のことをよく知っている
- ・即興で英語で質問していた英語力の高さ
- ・事前に深くまで調べていた。様々なグラフ、数字を出していた
- ・ポスターを全て英語で書かれているのがすごいと思った
- ・ディスカッション力、コミュニケーション能力
- ・英語力。ポスターセッションの時も英語で話していてすごいと思った。また海外に行ったり外国の人と交流をしていたので英語で伝えることが上手だった。
- ・旭丘高校は自分でアポを取ってケンブリッジの人と対話していた。英語で発表していた学校があった
- ・プレゼン力（特に名城生）。堂々としている。考える力。
- ・はっきりと前を見て話していた。質問にしっかりと答えていた。
- ・自分の意見を持っていてそれをちゃんと周りに発信できるどころ

⑦他校生より自分たちが優れている点は

- ・客観的考察
- ・意外性
- ・積極的にはっきりと筋道を立てて話せた
- ・一つのテーマを深めること
- ・伝え方
- ・観客もとりこむこと
- ・みんなが本当に一生懸命自分たちの調べたことを伝えようと発表していた。その気持ちは受け取ってもらえたと思う。

スーパーグローバルハイスクール(S



ニュージーランドと日本の雇用を比較した名城大学附属高校のグループ

海外と日本の違い、実感

名城大学附属高校主催の発表会

愛知・名城大学附属高校は11月19日、東海3県のSGHなど9校112人が集まって討議やポスター発表などを行う「Meijo Global Festa2016」を名城大学で開催した。海外でのフィールドワークの経験や研究成果などを発表し、活発に意見交換を行った。(文・写真 野村麻里子)

地域防災の大切さ知る

口頭発表には5校12グループが参加した。

岐阜県独自の「SGH」岐阜聖徳学園高校の山下華歩さんら2年生3人は、2月にフィリピンを訪れ、現地の高校生に災害時のリスクをシミュレーションするゲームを紹介したことを報告。「フィリピンは防災対策が遅れていると思っていたが、防災で大切な『地域の連携』ができていて、逆に学んだ」という。その体験を生かし、現在は地元の住民にゲームを紹介し、防災の大切さを伝えている。

ニュージーランドと雇用比較

ポスター発表には5校21グループが参加した。

愛知・名城大学附属高校の鈴野かれらさんら2年生5人は、ニュージーランドと日本の雇用を比較した。10月に修学旅行でニュージーランドを訪れ、市役所職員に雇用について話を聞いたことがきっかけで調べたという。

ニュージーランドは、女性

が管理職を占める割合が約35%と日本の3倍以上。男女の賃金格差が少なく「女性が働きやすい環境」と指摘。民族の多様性について外国人と雇用の差はほほないと発表した。鈴野さんは「日本だと転職や短期の労働をマイナスに捉えるが、ニュージーランドではさまざまな経験があり応用が利くと考えられていることも知り、驚いた。日本でも、この考え方を取り入れたら(雇用の環境が)変わるのでは」と話した。

ラオスの就学前教育を調査

愛知・中部大学春日丘高校の山田優華さん(2年)は、ラオスの就学前教育について調べた結果、農村部で暮らす少数民族の子どもは、小学校低学年で退学や留年をしやすくと知った。その原因は、教員やインフラの不足、就学前教育への保護者の理解不足などで、就学前に公用語に触れる機会がないため、と発表。山田さんは「解決のために江戸時代の寺子屋のような環境をつくること」を提案した。

- ・コミュニケーション
- ・英語でのプレゼン力向上
- ・準備時間の確保
- ・今後どうしていきたいかをはっきり伝えること
- ・すごい経験になったから次回は今日来られなかった生徒たちも参加できたらいいと思う。
- ・もっと訴えかけるような発表をしたい(相手の心にとまるような)
- ・どうやって普及していくか。DIGとか以外で防災について考えることができるか
- ・とても良い経験になった。楽しかった
- ・自分の意見をただ持っているだけじゃなくてきちんとまとめて相手に分かりやすく納得してもらえるように伝えること

まとめ

参加した生徒は、大変満足して行事を終えました。特に、発表のスキルが挙げたこと、人に聞いてもらって納得してもらって嬉しかったことが、大きな次の自信となったようです。

高校生新聞 12月号

名城大附属高校の行事なのに、1番最初に紹介されていました。